

# 令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立清門小学校

(令和3年1月29日作成)

<b>1 学校教育目標</b> なかよく（徳）・・・笑顔であいさつのできる子 かしこく（知）・・・進んで学習する子・確かな学力のある子 たくましく（体）・・・やりとげる子・きたえる子 ～「児童一人ひとりが輝き 笑顔あふれる学校」～	
<b>2 重点目標・努力目標</b> (1) なかよくの具現化 ・基本方針「いじめはしない、させない、ゆるさない」 ・「笑顔であいさつ」の推進 ・豊かな心の育成「道德教育・人権教育・特別支援教育の充実」 (2) かしこくの具現化 ・幼保小中一貫教育の推進 ・草加っ子の学びを支える授業の5か条の定着 ・指導方法の改善・学習規律の確立 ・読書の励行、学校図書館の活用を図る。 ・家庭学習の定着 (3) たくましくの具現化 ・体育授業時の運動量の確保 ・さわやかタイム ・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」	<b>3 前年度の成果と課題</b> <b>成果</b> ○「幼保小中を一貫した教育」に関わる研究・校内研修の充実が図られ、教職員がワンチームとなった発表会が開催できた。授業研究では、中学校区での共通理解に基づいた実践・協議がなされ、教職員一人ひとりの授業力・指導力にとって、有意義な研究・研修となった ○校内の諸問題について早期発見・早期解決等が図られるよう組織での適切な対応をすることができた。 ○学校応援団をはじめ、家庭・地域との連携・協力により、学校の環境整備や教育活動への支援、また安全・安心の確保等、充実できた。 <b>課題</b> ●教職員間の「率先垂範」「凡時徹底」の意識を高め、共通行動・共通指導の徹底を図る。 ●いじめ・不登校対策での関係諸機関との連携を図る。 ●学校運営協議会の発足に向けた準備を行い、地域との連携・協力の充実を図る。 ●これまでの「幼保小中を一貫した教育」に関わる研究発表に向けた取組を受け、さらなる充実を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営目標、方針</li> <li>校務分掌組織</li> <li>適所への適材配置</li> <li>職員会議等の運営</li> <li>予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教員が一丸となり、学校全体や児童が同じ方向へ向かっていけるように連携している。</li> <li>○校務分掌の組織がよく動いていた。部会が計画的に開かれている。</li> <li>○行事等変更が多い中、取り組める形で対応した行事が多かった。</li> <li>●教職員の共通理解・共通行動の徹底に課題がある。</li> </ul>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的に、組織的に校内の研修が進められ、コロナ禍でできることを取り組めた。子どもたちが、様々な教科で「言葉」を意識して使うようになった。</li> <li>○研修主任中心に、きめ細やかな研修計画がなされていた。</li> <li>●校外研修や研究授業に参加できる人数に制限があり、リモート参加や録画での参加も行ったが、実施方法について課題である。</li> </ul>
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健計画、安全計画</li> <li>環境衛生の管理</li> <li>健康観察、安全点検</li> <li>緊急事態発生時の対応</li> <li>危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染症対策が徹底できるように、保健主事・養護教諭を中心に組織的に取り組めた。コロナウイルス関連の対策の共通認識をはかることができた。</li> <li>○安全点検で修理箇所が見つかったと迅速に対応していた。</li> <li>●安全管理の点で、避難訓練を行ってみると、危機管理マニュアルに載ってない点で臨機応変な対応を迫られることが多々あり、マニュアルの見直し等課題である。</li> </ul>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理、保護</li> <li>施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○管理体制が整っていて個人情報などの文書は整頓されたロッカーに施錠して管理されている。</li> <li>●校舎等の老朽化に伴い、施設・設備のさらなる管理・維持、適宜の修繕に取り組む。</li> </ul>
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の発信</li> <li>学校公開の実施</li> <li>学校運営協議会、学校評議員制度の活用</li> <li>地域、校種間連携</li> <li>PTA活動の活性化</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度より学校運営協議会を設置し、学校の課題やコロナ禍での行事計画について協議をすることができた。</li> <li>○地域との連携やPTA活動について、コロナ禍でも工夫をし、できる限りのことが行われていた。</li> <li>○臨時休業中の様子の配信等を通して、学校の様子を伝えた。</li> <li>●密を回避しつつできる会の運営の検討や、コロナ禍で学校公開ができない状況の中、情報公開の方法の検討が課題である。</li> </ul>
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像の共有</li> <li>15年間を通じた教育課程の編成</li> <li>一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修等で幼保小中連携の視点をもつことで、系統性を意識することができている。</li> <li>○中学校教員との乗り入れ授業を通して中学校生活や授業の様子を知ることができた。</li> <li>●コロナ禍で、例年通りの取り組みが行えなかったため、今後実施方法の検討が必要である。</li> </ul>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じた教育課程の編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍で度重なる変更が求められたが、柔軟かつ迅速に対応できていた。</li> <li>●新しい生活様式に即した計画の作成。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の児童の実態に基づいた年間指導計画や学力向上プランが設定されており、教科指導を確実に実施できた。</li> <li>●コロナで制限が多く、対話的な学習や外部人材の活用に課題が残った。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○指導計画に基づき、学校全体として同じ形式で統一したワークシートの活用や挿絵の活用により、指導の充実を図れた。</li> <li>●今後、状況を見極めながら、外部人材の活用を進める。</li> </ul>
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外国語加配による専科の授業となり、児童の興味・関心を喚起した効果的な授業が展開された。そのため、児童たちは、より多く外国語に触れることができ、苦手意識を減らすこともできた。</li> <li>●専科教員とALTとのより良い連携・指導体制の充実を図る。</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○制限がある中、各行事の行う意義を見直しながら工夫して実施することができた。</li> <li>●コロナ禍での交流活動や行事の実施方法についての</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書室の本やタブレットなどの設備が充実しているため、スムーズに調べ学習できている。</li> <li>●指導計画の実施に伴い、個に応じた指導の充実をさらに進める。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画的、組織的に運営され、個々の教員も児童に寄り添い、細かく丁寧に対応している。</li> <li>○配慮の必要な児童について、共通行動がとれるように学校全体で確認する場を作り、協力して組織的に対応できていた。</li> <li>○いじめ防止対策委員会では、外部有識者として学校応援団コーディネーター、中学校さわやか相談員に加えて、スクールソーシャルワーカーにも加わってもらい、いじめ防止対策についてより多面的に検討できるようになった。</li> <li>●いじめ・不登校対策のさらなる充実。</li> </ul>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>中学校との連携</li> <li>啓発的経験の充実</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアパスポートを全学年で実施することができた。</li> <li>●家庭、地域との連携を進める。</li> </ul>

<p>⑨特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別の指導計画、支援計画</li> <li>・ 指導方法の工夫と改善</li> <li>・ 通常学級との交流</li> <li>・ 諸機関との連携</li> <li>・ 校内支援体制の整備</li> </ul>	<p>A</p>	<p>○通常学級との交流や、特別支援学級だより、清門小障がい者の日の取組等を通して学校全体に特別支援学級の様子が伝えられている。</p> <p>○特別支援学級では、個別の指導計画・支援計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導・支援、教育がなされている。</p> <p>○特別支援教育コーディネーターを中心に、関係諸機関と連携・協力し、支援体制が充実できた。</p> <p>●情報の共有・相互理解の上に立った、就学相談・教育形態の変更。</p>
<p>⑩学校図書館教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導計画、支援計画の作成</li> <li>・ 図書館補助員の活用</li> <li>・ 諸機関との連携</li> <li>・ 図書館の整備</li> <li>・ 図書館利用の工夫</li> </ul>	<p>A</p>	<p>○コロナ対応を工夫しながら、積極的に学校図書館の活用を行った。</p> <p>○年間目標冊数など、読書を推進する取組が充実している。</p> <p>●コロナ禍のため、読み聞かせ等の活動の制限があった。今後の実施方法の検討が課題である。</p>
<p>⑪情報教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育計画の作成</li> <li>・ 校内研修の充実</li> <li>・ ICT機器の積極的な活用</li> <li>・ 情報モラル教育の推進</li> </ul>	<p>B</p>	<p>○総合的な学習の時間等の場面でICT機器を活用した。</p> <p>○プログラミング学習の計画を全学年で作成、実践した。</p> <p>●学級数が多く、タブレットやホワイトボードの台数が足りず、備品の整備が必要である。</p>
<p>⑫人権教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体計画の策定</li> <li>・ 各教科との関連</li> <li>・ 人権感覚の育成</li> <li>・ 校内研修の充実</li> </ul>	<p>B</p>	<p>○人権標語・人権作文の取り組みと社会科の学習を通して人権について学ぶことができた。人権週間を中心に、人権について考えることができた。</p> <p>●多様化する人権課題について取組の充実を図る。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書タイム(読み聞かせ・親子読書デー等)</li> <li>・計算タイム</li> <li>・家庭学習チャレンジ週間</li> <li>・放課後学習教室</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習チャレンジ週間に多くの家庭が取り組みをしていた。</li> <li>○毎月23日を「親子読書デー」に設定し、家庭をも巻き込み、読書に親しませている。その成果で、読書好きで読書の習慣の身についている児童が多い。</li> <li>○学校教育補助員、地域の方々、大学生等の協力により、「放課後学習教室」「草加寺子屋(土曜学習)」を運営している。多くの児童が参加し、学力向上に向け、努力している。</li> <li>●読み聞かせや放課後学習教室等コロナ禍のため実施できなかった取組があった。今後、状況を見極めながら、実施方法の検討を行う。</li> </ul>
	体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さわやかタイム</li> <li>・体力向上レベルアップカード</li> <li>・相撲教室</li> <li>・なわとび教室</li> <li>・陸上大会</li> <li>・サッカー大会</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体力づくりをする機会は例年より大きく減ってしまったが、児童は生き生きと取り組んでいた。</li> <li>○「さわやかタイム(朝運動)」や「チャレンジカード(家庭での運動)」の取組など、コロナ禍で可能な範囲で児童の体力向上に向けた取り組みが確保できた。</li> <li>●休み時間の校庭使用人数に制限があり、運動の機会が少なかった。</li> </ul>
	学校応援団	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の登下校時の安全・安心</li> <li>・児童への学習支援</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各町会・自治会、平成塾、関係団体、PTA関係者と連携・協力した旗振りや見守りパトロールを実施し、児童の登下校の安全・安心確保について、充実している。</li> <li>○コロナ禍の中、安全・安心推進委員会を1回開催し、草加警察による講話、情報交換・共有ができた。</li> <li>●コロナ禍の中で学校応援団の活動内容の充実のため、実施方法について検討をする。</li> </ul>

### 5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・学校評価アンケートにおいて、本校の教育活動は、学校教育目標「なかよく・かしこく・たくましく」に基づいて「進められている」「概ね進められている」と答えた保護者は97%である。大多数の家庭、保護者は学校の教育活動に理解を示し、担任をはじめとする教職員に感謝の気持ちを持ち、何事にも協力的である。今後も信頼される学校を目指し、取り組む。
- ・国語科の校内研修の充実が図られ、研修推進委員会を中心に全職員で組織的に研究を深めることができた。教職員一人ひとりの授業力・指導力にとって、有意義な研究・研修となった。
- ・校内のさまざまな問題については、管理職・主幹教諭を中心に生徒指導主任、教育相談主任、特別支援教育コーディネーター等と共に、早期発見・早期解決等が図られるよう組織での適切な対応に努力した。また、必要に応じてスクールソーシャルワーカー等関係機関とも連携して対応できた。
- ・コロナ禍の中、制限がある状況ではあるが、学校応援団をはじめ、家庭・地域との連携・協力により、学校の環境整備や教育活動への支援、また安全・安心の確保等、充実できた。今後、状況に合わせた実施方法の検討が必要である。

### 6 次年度の改善策

- ・教職員が一枚岩となり、教育目標の実現に向けて取り組むためには、校長の示す「学校経営方針」を常に念頭に置き、「凡時徹底」「率先垂範」の意識の中で、共通行動・共通指導を実践していくことが大切である。次年度もこの意識を高めるよう共通理解・認識できるようにしていく。
- ・これまでの研究を土台とした「幼保小中を一貫した教育」の研究・実践の充実を図り、児童の学力向上・体力向上を目指した校内研修に取り組んでいく。特に「ICTを活用した教育」の充実を図っていく。
- ・「いじめや不登校児童」への取組・対策を充実させるために、「いじめ防止対策委員会」の改善・充実を図る。また、スクールソーシャルワーカー等関係諸機関との連携・協力をさらに深め、充実していく。
- ・今年度の計画を土台として、教職員の「負担軽減・業務改善」に向けた取組計画を作成する。教職員間の共通理解を図り、実践していく。